

KOSEN の窓

「有明高専の地元は？」

「荒尾たいー」「大牟田

たいー」という会話は、

学校を説明するときによ

くやります。荒尾も大牟

田も、学生や教職員がお

世話になっているのだけ

ら、何らかの形で恩返し

したいと常日頃から考え

ています。

そんなチャンスが訪れ

たのは平成23年6月のこ

とでした。荒尾市から、

市制70周年記念で荒尾駅

前を改修する際、シンボ

ルとなる万田坑第一立

坑やぐらのモニュメント

を製作するということ

で、その設計依頼を受け

ました。

別の卒業研究テーマで

動いていた学生2人が

「はいはい！」の二つ返

事で取り組んでくれまし

コンセプトで設計しまし

た。

「細かい！」でも構造

は細かい」ということ

ろに感心しながら、学生

たちが「100年以上の

歴史を持ち、地元を支え

てきた技術を伝えられる

ものを、地元の技術を集

めて作りたい！」という

コンセプトで設計しまし

た。

設計されたモニュメン

トは、実物の約5分の1

の大きさ。高さ約4桁、

総重量4・1トと過去の

卒業研究で最大の製作物

となり、みんな大感激で

した。

将来、学生

地元の人材と技術で作 った駅前モニュメント

⑮

有明高専創造工学科准教授

篠崎 烈

た。しかし製作と組み立

ては自分たちで行うので

はなく、地元の企業が行

うために設計時間が非常

に限られることもあり、

2度、3度と万田坑に足

を運んで立て坑やぐらを

眺めました。

平成24年4月に駅前の

シンボルとなったモニュ

メントは、荒尾市による

企画、機械工学科の学生

と教職員による設計と製

作、荒尾・長洲の鉄工会

社、建設会社、めつき会社

による製作と組み立てで

完成まじく地元の人材

と技術による成果です。

「大牟田駅に口ポ大蛇」

と地元の玄関

に有明高専の

名前が刻まれ

たことで、少

しは恩返しで

きたような気

分になりました。

将来、学生

たちが父親になって、「こ

れは、お父さんが設計し

たんだよ！」と言って子

どもに見せてくれたな

ら、それが高専教育の一

つの結果だろうと、私は

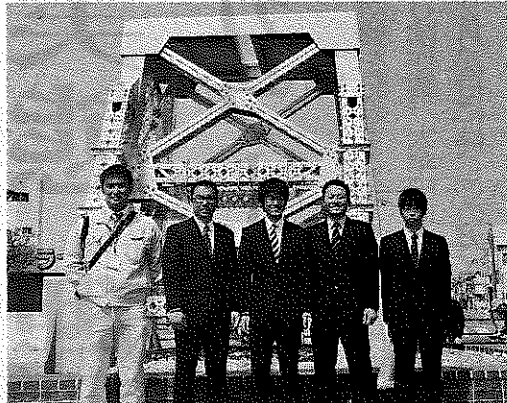
考えています。

ちなみに、設計した学

生たちは地元の企業で活

躍しています！

(不定期掲載)



駅前モニュメントの前で

有明高専